

道標 (みちしるべ) 第266号

平成23年6月23日

校長 稲垣 達也

指導と評価「心の居場所となる学級経営・学校経営」①

『学校規模で取り組む学級集団づくり』新潟県魚沼市立入広瀬小学校長 伊佐貢一

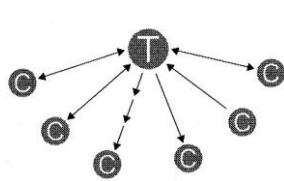
- ★親和的な学級集団において、子どもは学級の中に心の居場所を見つけることができる。親和的な学級集団は、「ルール」と「ふれあい」の確立によって育成される（Q-Uの理論）。
- ★親和的な学級集団の育成は、学力向上や特別支援教育をめぐる問題、いじめなど今日的な重要課題を解決する鍵を握っている。
- ★学校規模で学級集団づくりに取り組む必要がある。具体的な取組として、「学級集団づくりの校内研修」と「全校一斉方式ソーシャルスキル教育」を紹介する。
- ★「高学年の壁」をつくらないためには、低学年のときから親和的な学級集団の中で好ましい集団体験を積み重ねることが大切である。

【心の居場所と学級集団】

侵害行為がなく、認め合える人間関係がある学級集団を「親和的でまとまりのある建設的な学級集団」と呼び、この集団は「ルール」と「ふれあいのある人間関係（リレーション）」を確立することによって育成することができる。

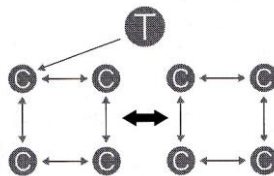
【親和的な学級集団育成のポイント】

- (1) ルールづくり (2) ふれあいのある人間関係



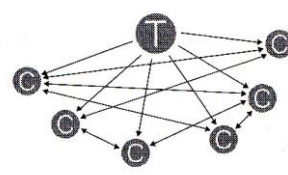
T = 先生 C = 子ども

図1 1対1の関係



T = 先生 C = 子ども

図2 ペアから4人へ



T = 先生 C = 子ども

図3 中集団から学級全体へ

【学校規模で取り組む学級集団づくり】

- (1) 学級集団づくりの校内研修
①学級づくりシート
②学級づくりレポート
- (2) 学校規模のソーシャルスキル教育

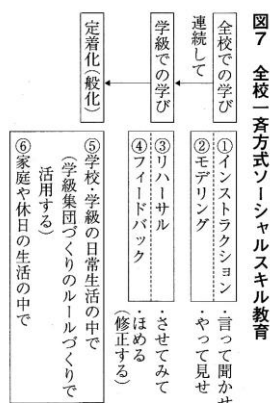


図7 全校一斉方式ソーシャルスキル教育

	取組	評価
各教科		
総合的		
外国語		
特活		
道徳		

図6 学級目標の達成状況評価シート

	4月	5月	6月
各教科領域から			
各教科領域から			
ふれあい			
成果と課題			

図5 学級づくりシート

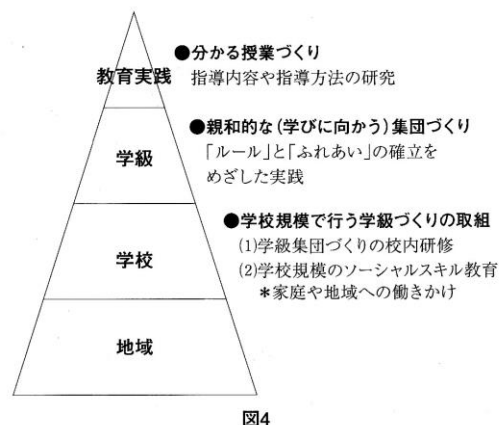


図4

指導と評価「心の居場所となる学級経営・学校経営」②

『ともに学び合う教師集団の堅持』 さとえ学園小学校科長 渡辺 和弘

- ★本学園の建学の精神「人間是宝」の教育は、子どもたち一人ひとりの個性をかけがえのないものとして尊重し、子どもに内在する可能性の開発に努め、その伸長を図ることを目的としている。
 - ★子どもたち一人ひとりを多面的、継続的に「まるごと」とらえられる教師集団であり続けるために、日々の実践で大切にしたいことを明確に位置付けている。
 - ★ ① 子どもたち一人ひとりに対する教師の構えの在り方
 - ② 教える側（教師）に立つ指導ではなく、子どもの側に立つ教師集団の堅持
 - ③ 子どもたちをより多面的に見ることのできる複合型教育への取組み
- 教師の進化した共通認識が、心の居場所となる学級経営や学校経営の中核であると考える。

- 1 子どもたち一人ひとりに対する教師の構え
 - 子どもたち一人ひとりの「よさ」や「可能性」を積極的に探す
 - ① 長所発見に注視 ② 学級経営 > 個に注視 「森を見て 木も見る」
- 2 教える側（教師）に立つ指導ではなく、子どもの側に立つ教師集団の堅持
 - (1) 率先垂範・師弟同行の姿勢を貫く
 - (2) 3かけ運動を実践する「愛情の目をかける」「励ましの声をかける」「助けの手をかける」
 - (3) 教師と子どもがともに学ぶ

学級担任10の心得

- 1 子どもの自主性や主体性を育てると言って、放任したり甘やかしたりしていないか。
- 2、子どもに注意していることを、自分自身が破っていないか。
- 3 子どもたちに対して、公平に接しているか。
- 4 一人ひとりを大事にして、良い点や長所を認め伸ばそうとする実践を展開しているか。
- 5 成績不振などの観点から子どもを先入観で見て、感情的に接していないか。
- 6 自ら率先垂範を実行することを忘れ、口先だけで怒ったり説教したりしていないか。
- 7 子どもの前で同僚の悪口を言っていないか。
- 8 誉めるべき時に誉めず、叱るべき時に叱らず、という指導をしていないか。
- 9 逆境の子どもを励まさず、反対にくしけさせていないか。
10. 教室管理（整理整頓、室温、換気）に細心の心配りをしているか。

児童理解10の心得

- 1 手は放しても、目は離さない。
- 2 自主性を尊重する半面、責任を負わせる心を忘れない。
- 3 短所の発見は易しい。長所の発見に心がけて子どもとかわる。
- 4 教えることは難しく、それに比例した愛情を注ぐことを心がける。（愛と勇気の教育）
- 5 あらゆる場面や時間を大切に、一人ひとりの適性の発見に努める。
- 6 先大観をもった見方をしない。信頼感を強固にする子どものかわり合いを忘れない。
- 7 昨日から今日のプラス面やマイナス面の変容を敏感に感じるように心がける。（逆現象に注意）
- 8 生活態度（服装、遅刻、欠席）に留意する。
- 9 多くの情報を収集して客観的な評価を心がける（子どもを「点」ではなく、「線」として捉える。）
10. 保護者を意識しすぎない。しかし、保護者への心の門は閉ざさない。